

3キャンパス入学式晴れやかに

文京学院の2018年度入学式・入園式が、各キャンパスで順次執り行われました。幼稚園から大学院、文京生涯力レッジを含む1947名が、文京学院での充実した学びで個々のキャリアを磨いていきます。(写真提供：スタジオ・トナミ)

4月2日「大学院全研究科、大学全学部」

経営学部、外国語学部、学内外での活動の様子がスクリーンに映し出されて開式。在学生の茂木玲奈さんのピアノ伴奏により、本郷キャンパス「五街道ウォーク」学生実行委員のリードで国歌・校歌が斉唱されました。

401名の新生が厳粛な面持ちで出席しました。

工藤秀機学長の式辞に続き、駐日サフスタン共和国特命全権大使のイェルラン・パウタルベック・コジヤタエフ閣下が祝辞を述べました。

続いて、文京学院大学後援会の島海久美子会長、文京学院校友会の大石理栄子会長、外国語学部・短期大学同窓会の丘春香会長、あ



コジャタエフ閣下祝辞

やめ会の伊藤啓輔副会長、ふじみ野会の須田正美会長、三医志会の眞野啓子副会長が来賓として紹介されました。教員紹介に続き、「在学生歓迎の言葉」は、ふじみ野キャンパス学生会の佐藤友香会長。それに応えて、次の院生・学生が「Statement」を述べ、本学で学ぶ決意や夢を表明しました(敬称略)。

★経営学研究科・玉川隆昭
★外国語研究科・宮内梨佐
★人間学研究科・早瀬仁美
★保健医療科学研究科・牧野真弥
★経営学部・榎部謙広
★外国語学部・三浦エリカ
★人間学部・中村圭希
★保健医療技術学部・小松愛華
★文京GCI・大谷里奈(外国語学部)

表明後、一同、工藤学長と固い握手を交わしました。最後に「新・文明の旅」プログラム海外派遣代表の浦田雅也さん、山田蓮さん、国内フィールドワーク代表の三好海さん、小泉玲雄さんがそれぞれの報告をしました。閉式後は、司会を本郷キャンパス学生自治会の岩山雄大会長にバトンタッチし、新入生歓迎パフォーマンス

大学院・大学の入学式(東京ドームシティホール)

4月6日「中学校」

高石和人中高一貫部副校長の司会により、仁愛ホールで厳かに開式。合唱部の透き通った歌声と共に、国歌・校歌が斉唱されました。

水上茂中高一貫部校長と島田輝子学園長の式辞に続き、後援会ふじみの豊泉唐副会長と同窓会、鏡友会の高島宏子会長が祝辞。

ふじみ会役員、文京学院校友会・大石理栄子会長ら来賓紹介後、在校生代表の加藤真尋さんが歓迎の言葉、新入生代表の石原明日香さんが誓いの言葉を述べました。続いて、島田学園長、島田昌和理事長、佐藤芳孝理事、清水秀樹監事をはじめ、水上中高一貫部校長、清水直樹高等部校長、高



水上中高一貫部校長の式辞

4月6日「高等学校」

高石和人中高一貫部副校長の司会により、仁愛ホールで開式。国歌・校歌斉唱後に、清水直樹高等部校長、島田輝子学園長が式辞、続いて後援会「ふじみの豊泉唐副会長が祝辞を述べました。

ふじみ会役員、鏡友会・高島宏子会長はじめ役員ら来賓紹介後、在校生代表の林花音さんが歓迎の言葉、新入生代表の久我綾乃さんが誓いの言葉を述べました。雨宮正典高等部副校長が、島田学園長、島田昌和理事長、佐藤芳孝理事、清水秀樹監事、清水高等部校長、水上茂中高一貫部校長、高石中高一貫部副校



清水高等部校長の式辞

スガスタート。本学のキャラクター「Tomちゃん」が現れると、緊張気味であった新入生の顔が笑顔に。趣向を凝らした軽音部のパワフルな演奏を楽しみました。

4月7日「ふじみ野幼稚園」

園庭に咲き誇るサイネリア、ガーベラ、菜の花に迎えられる、92名の新入園児が保護者と一緒に園ホールに着席。おじいちゃんやおばあちゃんなど、大勢の参列がありました。



挨拶する小栗園長

4月11日「文京幼稚園」

「春の風」予報の中、新入園児が楽しみにしていた「園庭での入園式」を執行。益田薫子園長のお話に続き、教員による動物人形の



挨拶する益田園長

4月3日「文京生涯力レッジ」

学びの意欲に満ち溢れた受講生60名の熱気溢れるスカイホールで、森岡俊也生涯学習センター所長・本郷キャンパスディレクターと、島田輝子学園長・同名舎所長が挨拶。続いて、本学保健医療技術学部理学療法学科の上田泰久助教が来賓挨拶と講話を行いました。



島田学園長らに祝福される受講生60名

副学長
人間学部教授



上村佳世子

新年度がスタートしてひと月ほどが経ち、学生さんたちは生活に落ち着きを取り戻した頃ではないでしょうか。私はと言いますと、まだ慣れない日々々に戸惑っております。長く人間学部にいるにもかかわらず、行事があまり頭に入っておらず、ふじみ野担当として次に何をしなければならぬかを、教えてもらいながらやっていると聞いて、まるで新入生のようです。

かつては女子大であった本学は平成17年に共学になりました。学部の新設に伴い建物も増設されて教室なども増えました。学生たちの気質は時代と共に変化しているものの、多くは将来の目標をきちんともって真面目で素直です。ただ、自分の長所を堂々と主張したり他者よりも前に出たりする傾向はあまり強くなく、就活の短時間の面接では不利なこともあるようです。もう少し時間をかけて話を聴いてくれたらと思うことも多いですが、採用は先方の問題です。大学の役割は、それぞれの学生が専門の知識や技能を十分に積み、それに基づ

人間力形成の環境提供

Green Spirits

一人ひとりの学生の現在の知識や能力を把握できれば、適切な指導や学習のヒントを提供することができます。その後の学修方針も立てられます。このように学修成果を把握する方法が適切かどうかを定期的に検証するシステムをつくっていくことが必要であると考えます。

人間学部は、学生さんたちは生活に落ち着きを取り戻した頃ではないでしょうか。私はと言いますと、まだ慣れない日々々に戸惑っております。長く人間学部にいるにもかかわらず、行事があまり頭に入っておらず、ふじみ野担当として次に何をしなければならぬかを、教えてもらいながらやっていると聞いて、まるで新入生のようです。

高校「SGH甲子園」で発表

本校は、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト」に指定されています。3月24日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにて開催された「全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会」（通称・SGH甲子園）に本校が参加しました。

本校SGH教育センターの杉本邦彦センター長・教諭から、当日の様子について、次の報告がありました。



堂々と発表する小林さん

同発表会は、関西学院大学・大阪大学・大阪教育大学が主催、早稲田大学が協力を文部科学省の大学入学者選抜改革推進委託事業です。SGH、SGHアソシエイトのみが出場を認められ、今回は全国から101校が参加しました。ポスタープレゼンテーションに97校、ディスカッションに25校、ディスカッションに14校が参加し、生徒総数は1000名以上になる大会です。

本校からは、国際教養コース2年の小林菜音さんが「日本とマレーシアのゼノフォビアに関する比較研究」について発表しました。これは、東京海洋大学との高大連携プログラムである「アジア研究」で1年間研究したテーマです。外国人観光客や移住者の増加が予想される日本にとって、外国人恐怖症と呼ばれるゼノフォビアは大きな課題です。

が、その解決に向けて、多文化共生が進むマレーシアとの比較研究を行いました。教育という観点から、「実用的なコミュニケーション能力育成のための言語教育」と「異文化理解教育」を解決の方策として提言しました。サポーターは、同コース2年の古木優伽さんが努め、杉本教諭と丸山香奈教諭が引率しました。

事前準備を十分に行った小林さんは、5分間の規定時間内にわかりやすく説明し、外国人留学生を始め専門家からの鋭い指摘や、様々な質問にも動揺することなく回答しました。

各生徒は、コメントシートに自分が見聞した発表の感想を書いて提出し、生徒同士の交流会では、自己紹介カードを交換しました。小林さん、古木さんも、約10校の生徒とカードを交

換し、交流を楽しみました。杉本教諭は次のように感想を述べています。

「研究活動をレベルアップさせるためには、他校の生徒や教員が集まる外部発表会に参加し、他校の研究を見学するとともに、自分の研究に厳しい指摘を受けることが必要です。今回の発表を契機に、グローバル社会の諸問題を解決する独創的な研究が、本校生徒からたくさん発表されることを期待しています」

大学「AnimeJapan」で学生大活躍

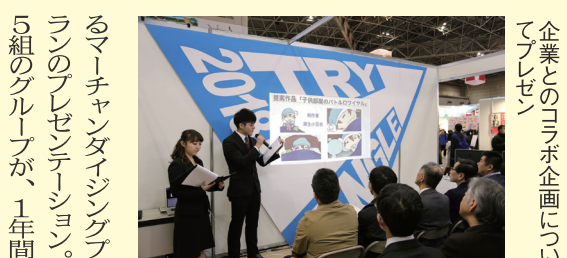
3月24・25日、東京ビッグサイトで開催された国内最大級のアニメの祭典「AnimeJapan 2018」に、本学が出席しました。

今回のテーマは「TRY ANGLE」。何事にも「TRY」し、学生ならではの視点・観点（ANGLE）で、企業と

イティブで斬新なアイデアを生み出し、提供するという想い。そして、運営・MD・デザインなどの3つの班による協力で、企業とのコラボを実践しながら活動を成功させるという強い意志が込められています。

まずは、本学ブースのメインプログラムの一つであるマーチャンダイジングプランのプレゼンテーション。

思考力、問題発見・育成する方法」をテーマにポスター発表。また本学の樋口桂教授（保健医療技術学部）、棚橋信雄特任准教授（教職課程センター）らが「自分の平熱を測る」アクティブラーニングの手



の取り組みについて発表しました。

【伊豆大島班】伊豆大島の土砂災害復興支援の一環として、昨年に引き続き「椿ランタンライトアップ」を実施。今回は島民対象の「椿ランタンの作成会」を行い、全体で1000個のランタンを作成しました。

SNSによる情報発信も功を成し、来場者は200名を超えました。文京区の「助六太鼓保存会」の演奏もあり、パワーアップしたイベントとなりました。

【伝統工芸班】岩槻人形の元祖「神雛」復興のため、「大切な人への願いを込めて」というコンセプトのもと、人形職人と共に新商品の開発に取り組みしました。

CMをイベント内で上映。企業ブースの装飾デザインも、CMイメージの通りに担当しました。

【フリーメンズ】東日本大震災復興支援の一環で、学生デザイングッズを制作・販売し、売上金の全てを被災地に寄付する活動を継続。今回は、岩手県釜石市で初プロデュースとなる復興支援イベント「根浜グランピア」を実施しました。

番組「文京学院大学 Anime Japan 2018 学生実行委員会」より生中継！で生配信しました。

なお、同会場で開催された「ファミリアアニメフェスタ2018」では、経営学部の喜多見康教授と、同学部学生がASAGRAPHと共同でファミリア層向けのワークショップを行いました。参加した子どもたちは、パソコンとペンタブレットで楽しいアニメ制作体験をして大喜びしました。

中・高 大学

「日本アクティブ・ラーニング学会」本学で開催

「日本アクティブ・ラーニング学会 第2回全国大会」が3月25日、本郷キャンパスで開催されました。

同大会では、2020年度から開始する新学習指導要領の「学力の3要素」定着を意識し、教科学習におけるアクティブ・ラーニングの導入などにより、小学校から高校教育の現場がどのように変化していくのか、また、それを受け入れる大学教育はどのように対応する必要があるかなど、先進的な学校現場や高大連携の取り組みに着目。全国各地の小学校・中学・高

校・大学から教員が参集し、2020年にふさわしい小中高大接続を実現するためのアクティブ・ラーニングの可能性について、討議・議論を深めて追求することを目的としています。

基調講演1は「アクティブラーニング型授業理論と実践」をテーマに、京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上慎一教授が担当。基調講演2は「新学習指導要領における教科情報とアクティブ・ラーニング」をテーマに、文部科学省生涯学習政策局の鹿野利春教科調査官が行いました。

評価研究部会では、本学外国語学部の清水公男准教授らが、「OPP（1枚ポートフォリオ）を活用した学習評価デザインの授業実践研究」について発表。

実践発表では、本校の鈴木康恵教諭が「身近なテーマを利用して生徒の科学的

会を実現するための考え方」とはどのようなものだろう」と発表。また本学の樋口桂教授（保健医療技術学部）、棚橋信雄特任准教授（教職課程センター）らが「自分の平熱を測る」アクティブラーニングの手法について」をテーマにポスター発表に臨みました。

特別セッションとして、米田謙三同学生会長（関西学院千里国際中等部・高等部）が「コーヒーを通して持続可能な社会とは何かを知る」ことができて楽しかった」などの感想が聞かれました。

シンポジウムでは、国立教育政策研究所の福本徹氏と、千代田区立麹町中学校の工藤勇一校長が登壇し、意見を述べ合いました。

終了後には会場をB'sダイニングに移し、情報交換会を実施。参加者一同、和気あいあいと交流を深め、有意義な一日を締めくくりました。

【中津川班】岐阜県中津川市の魅力を発信するため、地域・行政・中京学院大学と連携。地元「おいでん祭」では神輿を担ぎ、「あんどん祭」では市花「サラサドウダン」をモチーフにしたライトアップでブースを装飾。「ふるさと祭り東京2018」では、中津川市のブースデザインを担当し、今後、継続して提案していくコンテンツ内容を発表しました。

【STB班】企業の地上波用アニメCMをリニューアル制作した作品が、現在放送されています。その他、海外顧客向けに英語、韓国語、中国語の3パターンの



「日本アクティブ・ラーニング学会」本学で開催



米田会長の授業を受ける生徒たち

米田謙三同学生会長（関西学院千里国際中等部・高等部）が「コーヒーを通して持続可能な社会とは何かを知る」ことができて楽しかった」などの感想が聞かれました。

シンポジウムでは、国立教育政策研究所の福本徹氏と、千代田区立麹町中学校の工藤勇一校長が登壇し、意見を述べ合いました。

終了後には会場をB'sダイニングに移し、情報交換会を実施。参加者一同、和気あいあいと交流を深め、有意義な一日を締めくくりました。

【STB班】企業の地上波用アニメCMをリニューアル制作した作品が、現在放送されています。その他、海外顧客向けに英語、韓国語、中国語の3パターンの



AnimeJapan 2018実行委員会のメンバー



ブレメンズについてニニコ動画で配信